

更生支援活動の受け入れ態度に影響を及ぼす感情・認知要因

○ 讀井知¹・上市秀雄²

¹筑波大学システム情報工学研究科・²筑波大学システム情報系



s1520474@sk.tsukuba.ac.jp

背景

◆ 更生支援がおかれた現状

近年、一度罪を犯した人の社会復帰を支援する更生支援の重要性が問われているが、**保護司の人員不足や高齢化**が問題となっている。また、更生支援対象者を受け入れる社会に誤った認識や偏見が蔓延していると円滑な社会復帰の妨げとなる可能性がある。

(小侯・島田,2011)

一般市民からの**“理解・支援”**を得ることが必要

目的

- ① 更生支援活動について**一般市民がどのように認知・評価しているのか**
- ② 更生支援活動についての認知や評価は**互いにどのような関係にあるのか**

調査

どのような要因を改善すれば更生支援活動に関する理解を得ることができ、社会復帰の円滑化、さらには再犯率の低下に結びつけることができるのかについて男女別の対応を検討する

結果

Table1 情報源、知識、保護観察制度評価、保護司評価、保護観察対象者評価、更正支援参加意向の各項目の男女平均値とt検定の結果

項目	男性	女性	検定結果
情報源			
メディア			
犯罪被害者の支援に関するニュースを見たことがありますか	2.90(1.22)	3.02(0.96)	
犯罪加害者の更生支援に関するニュースを見たことがありますか	2.78(1.18)	3.11(1.09)	
家族			
家庭で加害者の処遇について話題がでたことがありますか	2.30(1.19)	2.33(1.17)	
家庭で被害者の悲しみや苦しみについて話したことがありますか	1.30(1.25)	3.22(1.16)	
知識			
保護司の活動内容(5項目)			
保護司は対象者の生活指導をしているのを知っていた	1.67(1.20)	2.60(1.58)	-3.92***
保護司という言葉聞いたことがあった	1.57(1.21)	2.33(1.72)	-3.02***
保護司制度の内容(4項目)			
保護司は一般市民がなっているのを知っていた	1.48(1.02)	1.76(1.27)	
保護司の活動は実費のみ支給であることを知っていた	1.38(0.88)	1.65(1.15)	
保護観察制度に対する評価			
周知の必要性(4項目)			
保護司について世間の人はもっと知るべきだと思う	3.96(0.96)	4.30(7.43)	-2.33*
制度について行政機関はもっと市民に知らせるべきだと思う	3.98(0.94)	4.31(0.84)	-2.32*
肯定的評価(3項目)			
更生支援に関する諸イベントは			
犯罪・非行の防止に役に立っていると思う	3.26(0.97)	3.57(0.94)	-2.05*
保護観察は再犯防止に重要な役割を果たしていると思う	3.59(1.01)	3.89(0.96)	-1.88*
批判的評価(4項目)			
加害者より被害者のケアのほうが重要だと思う	3.32(1.05)	3.35(1.05)	
対象者は収容期間より早く社会に出てくるので良くないと思う	2.80(1.05)	2.57(0.96)	
保護司評価			
不安・ストレス(5項目)			
保護司は活動を行うにあたり、ストレスを抱えていると思う	3.89(0.97)	3.89(1.06)	
保護司は活動を行うにあたり、不安を抱えていると思う	3.85(0.97)	4.04(0.82)	
人間性支持(4項目)			
活動を行うことで保護司自身の経験も豊かになると思う	3.85(0.89)	4.09(0.81)	
保護司をしている人は立派な人だと思う	0.83(1.01)	3.87(0.97)	
保護観察対象者評価			
不安(4項目)			
過去に犯罪や非行を行った人であっても、きちんと更生しているのであれば			
自分は分け隔てなく接すると思う(逆転項目)	3.24(1.12)	3.59(0.98)	1.41*
対象者が近所にいたら不信感を感じると思う	3.53(1.02)	3.30(1.08)	
効用(5項目)			
対象者は対人関係スキルを身に付けることができると思う	3.45(0.94)	3.74(0.83)	-2.01*
対象者は期間終了後も保護司と良い関係が続くと思う	3.21(0.97)	3.52(0.97)	-2.01*
不適正(3項目)			
対象者にとって、面談等を行うのは負担が大きいと思う	2.87(0.99)	2.91(0.90)	
更生施設内で収容期間を満了する方が更生に役立つと思う	2.80(0.92)	2.70(0.74)	
更生支援への参加意向			
肯定的態度(7項目)			
対象者の相談にのる機会に恵まれたら参加すると思う	2.39(1.10)	2.89(1.16)	-2.82**
非行防止教室に参加する機会に恵まれたら参加すると思う	2.33(1.09)	2.89(1.26)	-3.03**
制度に対する条件付き態度(6項目)			
犯罪の種類によっては、更生を支援してもよいと思う	2.79(1.16)	3.25(1.11)	-2.46*
危険が及ぶ心配がないのであれば、対象者の更生を支援してもよいと思う	2.78(1.01)	3.35(1.05)	-3.34**
環境に対する条件付き態度(4項目)			
身近な人が更生支援活動をしていたら手伝うと思う	2.98(1.04)	3.52(1.02)	-3.28**
対象者のことをよく知っていたら支援してもよいと思う	3.16(1.08)	3.67(0.87)	-3.47**
批判的態度(2項目)			
自分が更生支援活動に関わるのは、少し抵抗を感じる	3.59(1.02)	3.19(1.12)	2.48*
自分は更生支援活動に関わりたくない	3.31(1.04)	2.74(1.05)	3.45**

方法

◆ 実験参加者

2014年11月関東地方の大学生に下記質問紙を配布し、210名の回答を得た。(男性153名、女性54名、不明3名)

◆ 因子分析

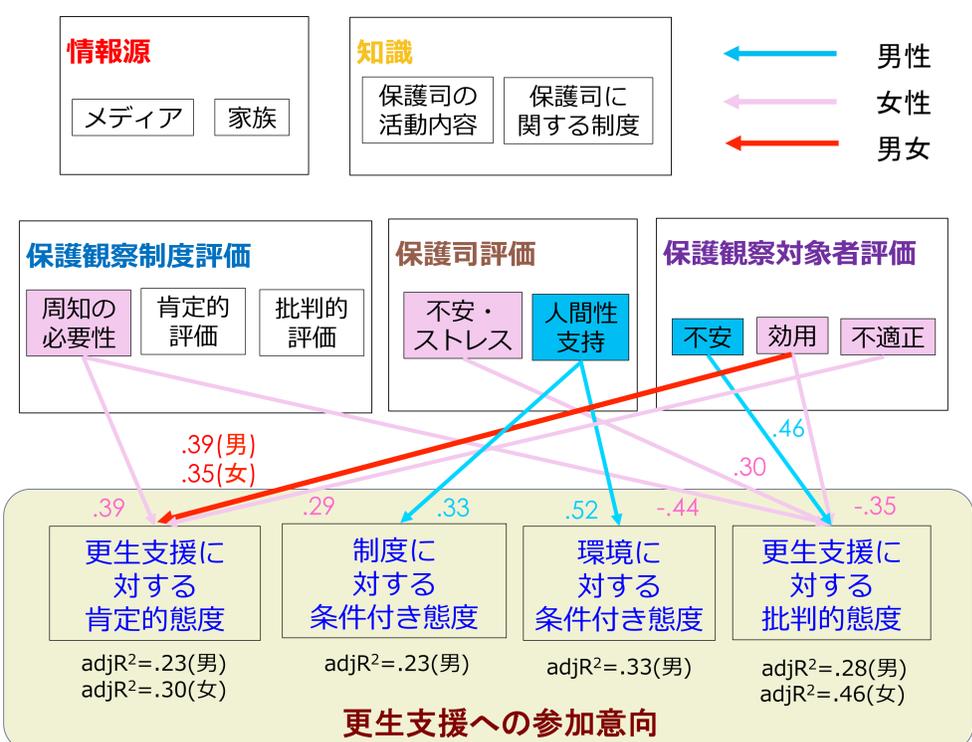
情報源、知識、保護観察制度評価、保護司評価、保護観察対象者、更正支援への参加意向のそれぞれにおいて、因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行い、因子負荷量が概ね0.40以上であることを基準にして、固有値の減衰状況と因子の解釈の可能性により因子を抽出した(Table 1)。

◆ t検定

各下位項目において性別の差異を明らかにするためにt検定を行った。

◆ 階層的重回帰分析

各下位項目の合計値を用いて、階層的重回帰分析をおこなった(全ての分析にはSPSS Statics22を使用)



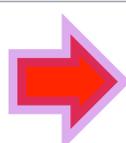
まとめ

① 更生支援活動について

一般市民がどのように認知・評価しているのか

女性は、男性と比較して、以下の傾向あり

- ・ 保護観察制度を評価
- ・ 保護観察対象者に対する効用を評価
- ・ 更正支援への参加意向が高い
- ・ 保護司の活動に関する知識量が多い
- ・ ただし男女とも知識量自体は少ない



② 更生支援活動についての認知や評価は互いにどのような関係にあるのか

参加意向に**プラス**の影響を与えているのは
男性は「**保護司評価の人間性支持(立派だと思ふ)**」,
女性は「**保護観察対象者評価の効用(対人関係スキルを身に着けると思ふ)**」

参加意向に**マイナス**の影響を与えているのは
男性は「**保護観察対象者評価の不安**」,
女性は「**保護司評価の不安・ストレス**」

- 一般市民に更生支援活動についての情報を得てもらうことが大切
- 男性には、特に保護司の活動のすばらしさ、
- 女性に特に対象者が更生した事例を伝えることが、良いと考えられる